

天橋立周辺まちづくり計画（仮称）

中間報告資料

平成 1 8 年 3 月 9 日

第 4 回検討会資料

序章（まえがき）

- ・天橋立を核とした景観とは
- ・なぜ「景観まちづくり」なのか

第1章 景観まちづくりの特性（地域の景観特性）

- 1 - 1 対象地区
- 1 - 2 景観上の特性とゾーン区分
- 1 - 3 現状と課題

第2章 景観まちづくりの目標像

- 2 - 1 景観まちづくりの基本理念
- 2 - 2 景観まちづくりの基本方針と目標像
 - ・地域全体
 - ・重点地区別

第3章 各主体に期待される役割

- ・住民、まちづくり団体、事業者、行政の役割
- ・それぞれの協働・連携

第4章 実現への道筋（計画の推進方策）

- 4 - 1 方策の体系
 - (1) 大景域
 - (2) 移動景観
 - (3) 小景域
- 4 - 2 方策の運用方針
 - ・4 - 1の体系ごとの、実施、改善のための具体的方策
- 4 - 3 住民参加と協働に向けて
 - ・具体的方策実施に当たっての体制等

天橋立を核とした景観とは

天橋立を中心とした重層的歴史

天橋立とその周辺は、平安時代から歌枕の地として親しまれ、景勝探訪の地として広く認識されてきた。また、天橋立を一望する府中に国府が置かれるなど、古代・中世を通じて政治の中心地であった。

近世では城下町が形成され貿易港としても繁栄するなど、丹後地域の中核的都市としての基盤が形成。

悠久の歴史のなかでその舞台となった社寺や建築物、町並みなどの歴史的資源が周辺に数多く残存。

自然景観の中心的存在・精神的な存在

白砂青松の天橋立と海、周囲の山並みが織りなす自然景観は、古代より多くの文人墨客らによって賞賛され、時代を超えて多くの人々に感動を与えてきた。

こうした自然景観を含め、重層的に蓄積された歴史や文化によって醸成されてきた天橋立を中心とした景観は、地域に住まう人の情景（原風景）として育ってきた。

共有の財産

地域住民の営みと努力によって育まれた景観は、この地域のアイデンティティというべき存在であり、住民さらには国民共有の価値ある財産。

なぜ「景観まちづくり」なのか

天橋立とその周辺の景観は、歴史と文化の積み重ねとともに培われてきたが、戦後復興やその後の高度経済成長期には、利便性・合理性を追求する流れの中、生活スタイルや生業環境の変化により、身近なまちの景観が大きく変化し、里山や農山漁村等の文化としての景観が失われつつある。

価値観の多様化、ふるさと意識の希薄化する現代において、地域のアイデンティティを根底部分で支えるための価値観の共有が重要となってきている。

「人々の生活や生業、文化活動のあり様が地域の景観として表象されている」という認識。

「景観」というキーワードから地域の営みを再点検し、地域の空間的、歴史的背景や文脈を十分に読み解きつつ、先人から受け継いだ美しい景観を保全し、育成し、新たに創造して、次の世代に引き継いでいくための、総合的かつ継続的な「景観まちづくり」が必要。

重層的な歴史を背景として

「歴史、自然環境、名所旧跡」が一体になっているものが天橋立の魅力

重層的な歴史や過去の記憶を内包した現代の人の心に共感した景観まちづくりが必要

古代の天橋立がどのように捉えられていたかを考える手がかりとなるのが和歌である。

天橋立とともに詠まれている代表的なものは松、月、霞、霧、潮風、海女、船、草、波など
中世以降、天橋立は芸能の舞台として注目を浴びた。天橋立が題材となった作品が複数つくられた。

中世以降新たな要素として加わったのが宗教空間としての天橋立である。

宗教空間に行くという中世の社会的な認知が近世に至って、観光地に行ってみいたいという動機につながって天橋立の賑わいが形成されたと考えられる。

共有の財産として...

天橋立の景観は丹後経済の基盤といっても過言ではない存在。住民共有の財産として次世代への継承。

美しい天橋立をさらに美しく守っていくための意識の醸成

営み・経済活動の観点から...

昔と今では営み（観光）の質が異なる 時代にあった魅力的な景観づくりが必要

地域の人に親しまれる場所にするための魅力付け

時代のニーズにあった情報発信やPRが必要

風景的観点から...

心象的風景、原風景として守り育てるもの

景観に対する評価は時代とともに変化してきた。その変化は複合的要素の蓄積によって育まれる。

人の営みに関して...

「居心地のよいまち」「人に誇れるまち」とすることが景観を守り、育てることにつながる。

第 1 章 景観まちづくりの特性

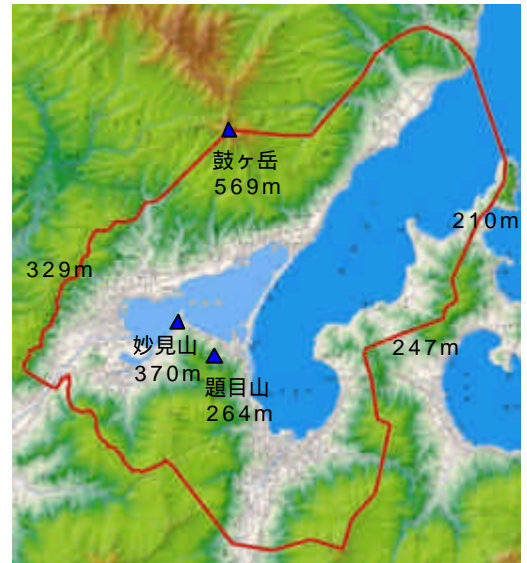
1 - 1 検討対象地区

天橋立を中心とした周辺景観（景域）は周囲の山の稜線によって区切られる。

海岸線や展望台から天橋立を望む場合、その眺望景の背景のほとんどは山並みである。

雪舟の「天橋立図」や「丹後与謝海天橋立之図」などの絵画のなかでも、俯瞰的構図の中に山並みによって縁取られている。

阿蘇海と宮津湾の海域を取り囲む山並みの主尾根から沿岸域（陸域）および海域を対象地区とする。



検討対象区域図



雪舟「天橋立図」



1 - 2 景観上の特性とゾーン区分

(1) 地形

丘陵は成相寺北側の鼓ヶ岳（標高 569m）を最高として、おおよそ 150m～300m 級の山並みによって構成されている。

山林が海岸線近くまで迫っており、海岸線に沿って平地が形成されている。まとまった平地は大手川や野田川などの河口付近にみられる。

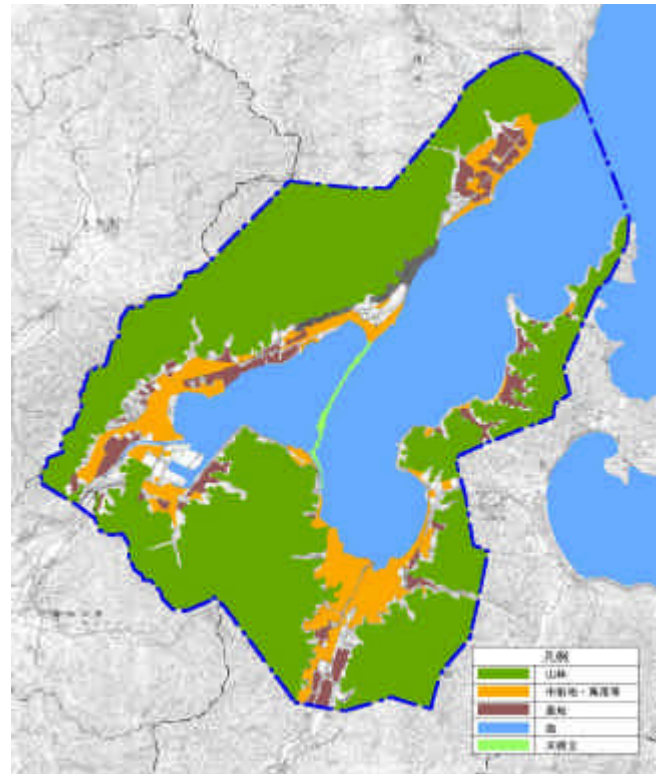
天橋立は野田川などから流出する土砂が堆積してできた全長約 3.6km の砂州である。4000 年前、海面に現れたものと推定され、小天橋は文珠砂州が埋め立てられた江戸中期以降に形成されたものである。



(2) 山と海と市街地の構成

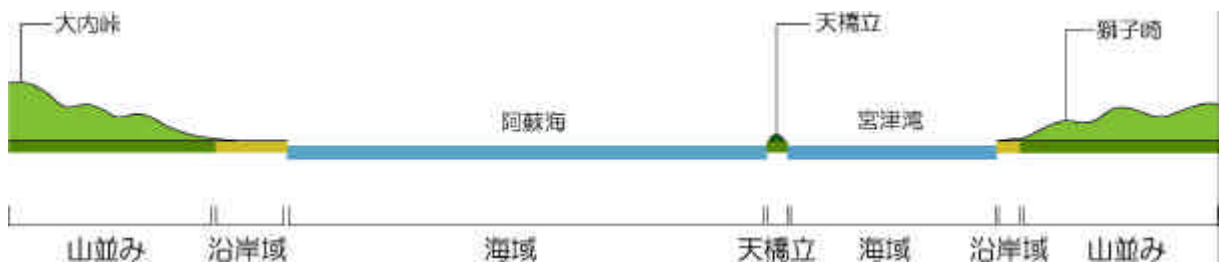
山が海岸線近くまで迫っており、山裾から海岸線までの沿岸域に、コンパクトな市街地や集落が形成。

沿岸域に形成されている市街地や集落は、宮津湾の湾奥部の宮津中心市街地地区、天橋立が沿岸域に接する付近の文殊及び府中地区、阿蘇海西部の湾奥部に位置する岩滝地区に代表される。

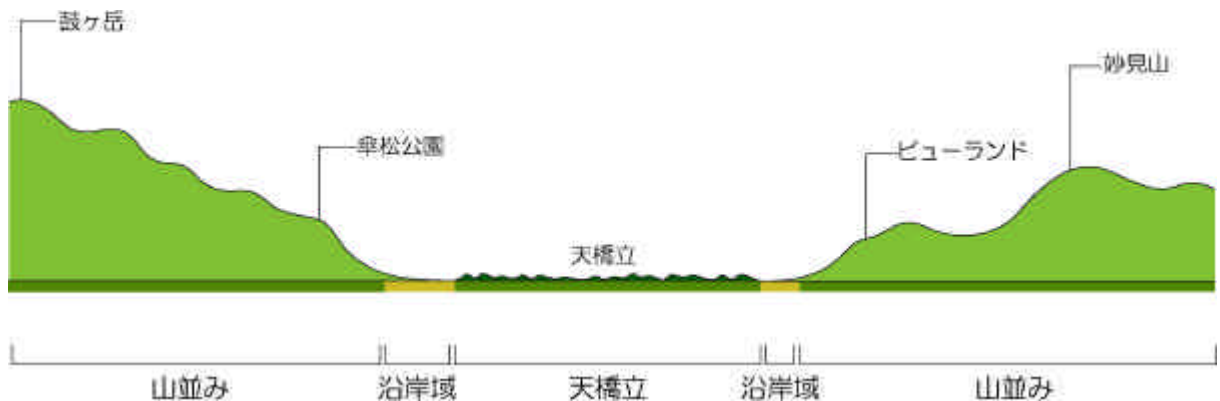


土地利用等構成図

東西断面図



南北断面図



(3) 主要な眺望景観の視点場

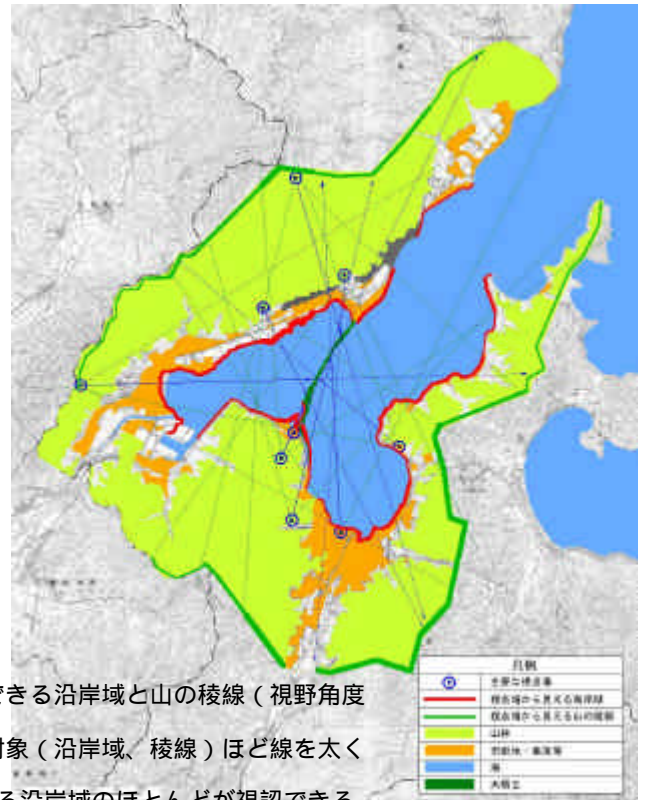
主要な視点場と視対象の図

周囲の丘陵の頂や中腹には、複数の展望施設が存在。天橋立への眺望もさることながら、阿蘇海や宮津湾の海域、眼下の沿岸域と対岸の沿岸域及びその背後に広がる山並みを一度に展望が可能。

景勝地としての歴史

古くから親しまれていた展望施設

天橋立は、日本三景の一とされて以来、景勝地として広く世に知られるとともに、古くから展望台が設置されるなど、多くの人が天橋立を俯瞰することができる場所が複数あった。



主要な視点場から眺望できる沿岸域と山の稜線（視野角度を60°とした場合）

- ・見られる頻度の高い対象（沿岸域、稜線）ほど線を太くしている。
- ・阿蘇海と宮津湾に接する沿岸域のほとんどが視認できる。

主要な眺望スポット（視点場）

～天橋立十景を中心に～

山の頂や高台からの眺望

著名な視点場として、文珠地区のビューランド、岩滝地区の大内峠一字観公園、府中地区の傘松公園などがあげられる。

市街地やその周辺からの眺望

宮津中心市街地の島崎公園付近や府中地区の国分寺跡付近より天橋立を望むことができる。

道路や海上からの眺望

上記の他、多数の人が眺望できる場所として、海岸線付近を通る道路や海上航路など、移動中の車窓からの眺望がある。

大切にしたい眺望・景観の視点場は？

～地域住民や来訪者が選ぶ代表的な視点場～

平成17年11月に実施した「天橋立周辺地域における魅力的な景観まちづくりに向けたアンケート調査」によれば、「大切にしたい眺望・景観の視点場」の上位に「傘松公園」や「ビューランド」「成相寺」などが選定。



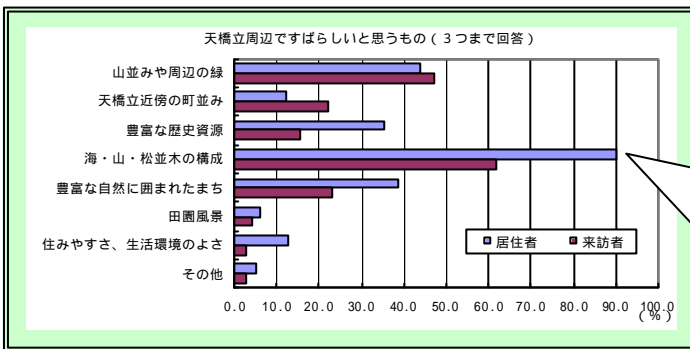
傘松公園からの眺望



国分寺跡付近からの眺望

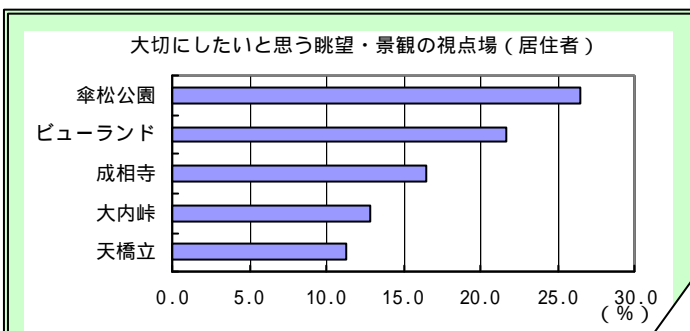
アンケート調査から

天橋立周辺地域における魅力的な景観まちづくりに向けたアンケート調査



天橋立周辺ですばらしいと思うもの

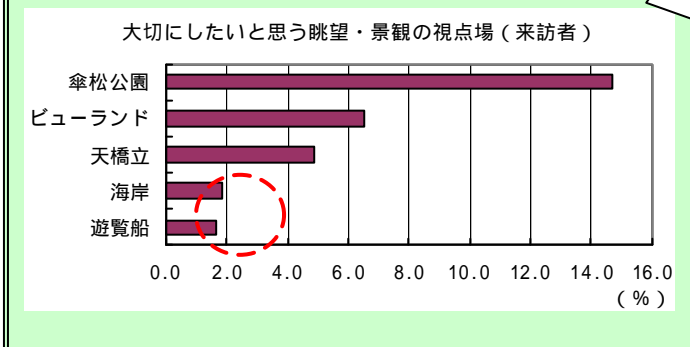
最も多い回答は、居住者、来訪者ともに「海・山・松並木の構成」以下、「山並みや周辺の緑」「豊富な自然に囲まれたまち」と続く。天橋立は自然に恵まれていることが高く評価。



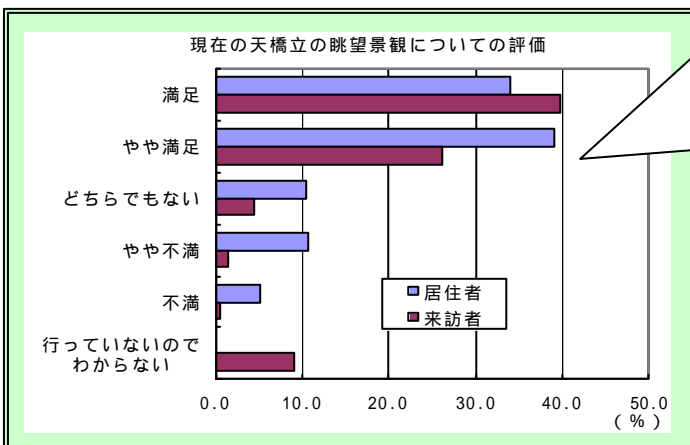
大切にしたいと思う視点場

～望み見る場所～

居住者、来訪者ともに多かったのが「傘松公園」と「ビューランド」。著名な展望施設からの場所が選定。



来訪者の回答の上位に「遊覧船」が含まれており、海上航路からの眺望についても評価が高い。



現在の天橋立の眺望景観についての評価（満足度）

現在の天橋立の眺望景観についての評価（満足度）は、「満足」と「やや満足」と答えた方の合計は60%を超えており、現在の景観に対し、両者ともおおむね満足。居住者が、やや厳しい評価。

みんなで天橋立の景観を考えよう！ワークショップ意見より

～眺望景観、視点場に係わる意見～

島崎公園や歴史の館から見る天橋立がよい。
 大頂寺付近から見る天橋立への眺望もよい。
 府中のまちのいたるところから天橋立が見えてよい。
 天橋立内部からみる景観もよい。朝日や夕日、季節毎の風景もよい。



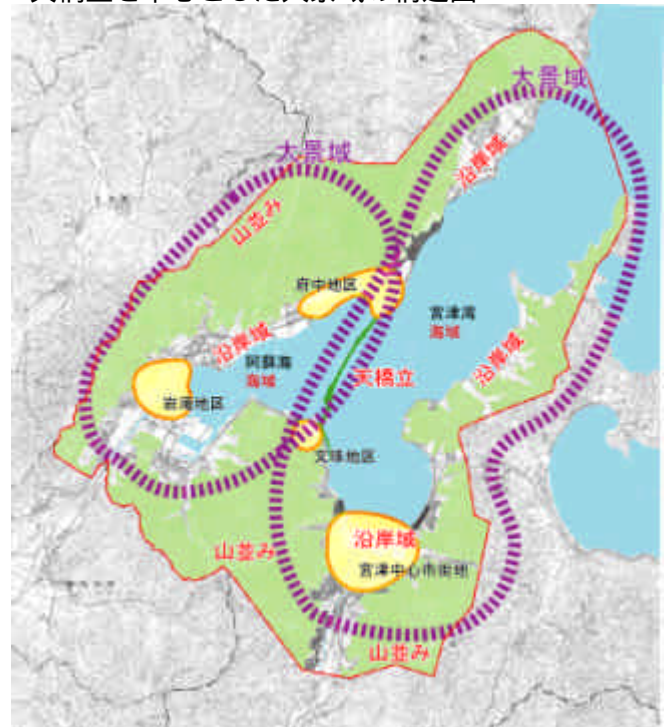
(4) 景域の構造 ~ゾーン区分~

1) 大景域の構造

天橋立周辺の景観構造は、天橋立を境界にして阿蘇海を囲む景域と宮津湾を囲む景域で区分できる。

この2つの景域をつなぐ存在が天橋立となっている。

天橋立を中心とした大景域の構造図



景域の特徴

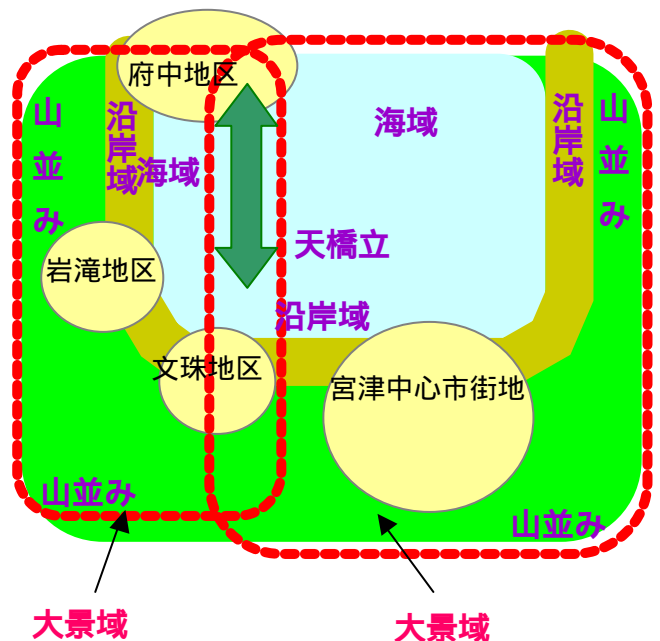
阿蘇海側の大景域

- ・阿蘇海側の沿岸域には文珠地区を始め須津、岩滝地区及び府中地区の市街地が点在。
- ・府中地区から岩滝地区にかけて、海岸線に多くの田園等土地利用が見られ、その田園の中に集落が点在。

宮津湾側の大景域

- ・宮津湾の再奥部に宮津中心市街地が位置し、宮津湾の東岸には近年開発された戸建て住宅地や集合住宅等が点在する他、小規模な田園集落が海岸線に沿って点在。
- ・栗田半島の北端に近づくほど、集落が少なくなり自然度が高い。

大景域の構造概念図

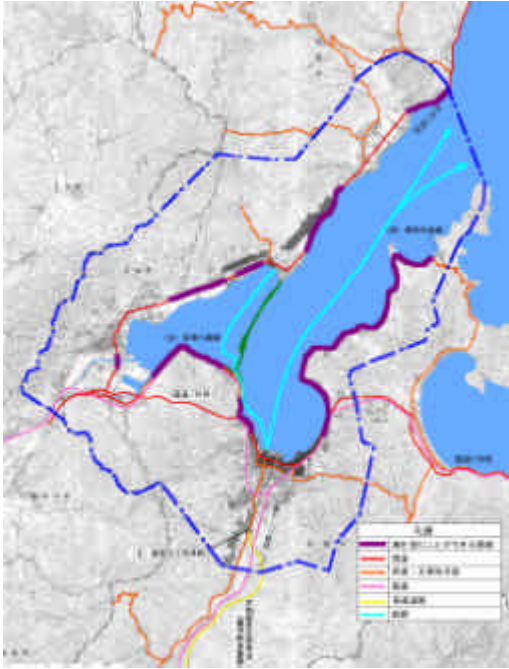


2) 移動景観の構造

海沿いを通る主要な幹線道路、路線から見える海域

- ・海岸線に沿って、主要な幹線道路国道176号と178号、阿蘇海に面して府道宮津八鹿線が通っている。また、北近畿タンゴ鉄道宮津線が一部並走する区間があるなど、海への眺望が開けた区間が多くある。

移動景観（幹線道路と海上航路）



国道178号沿道（府中）から天橋立方



府道栗田半島線から南方向

海域の移動景観・海上航路、観光船からみる

- ・府中地区と文珠地区及び、宮津中心市街地地区を結ぶ観光船が定時運行されている。このほか、伊根湾巡りの観光船も運行されるなど、多くの人が海上から天橋立や沿岸域眺めを楽しむ事ができる。



観光船から天橋立方方向



観光船から傘松公園方向

3) 小景域の構造

平成18年度の検討事項

- 主要地区の景観要素及び特徴の分析
- 土地利用状況等を踏まえた景観上の地域区分 等々

1 - 3 現状と課題

1 - 2 で分類したゾーン区分を基に現状と課題を分析



【検討要素】	
天橋立周辺の景観	(1) 大景域 ... 天橋立、海域、沿岸域、山並み
	(2) 移動景観 ... 道路沿道景観、海上景観、海上交通 等
	(3) 小景域 ... 家並み、田園集落、電線、土地利用 等

(1) 大景域


大景域を構成する要素として、天橋立、海域、沿岸域、山並みに大分類

この分類を基に自然景観、市街地景観、田園集落景観、幹線道路沿道景観、移動景観等の項目で「現状の特性」と「課題」を整理

1) 天橋立

	現状特性	課題
自然景観	<p>大天橋、小天橋、第二小天橋からなる延長 3.6km の砂州。</p> <p>約 5,000 本(幹径 10 cm以上)の松が続き、白砂に縁取られた天恵の景観</p> <p>天橋立内の府道「天の橋立線」有。「天橋立神社」「磯清水」等の歴史的遺構、「与謝蕪村」等の歌、俳句の句碑が点在。</p>  	<p>松林や砂州の管理</p> <p>「周辺住民との良好な関係」によって維持・保全されてきたが、人々のライフスタイルの変化等により、日常生活の中で住民と松並木との関わりは薄れつつある。</p> <p>環境の変化により土壌の肥沃化や樹木密度の高まり、松枯れの広がりなど、松を取り巻く新たな問題が発生。</p>

2) 海域

	現状特性	課題
自然景観	<p>古くから天橋立とともに一体的に眺望されてきた景観は、橋立に隣接する海域として重要な自然景観要素の一つ。</p> 	<p>阿蘇海の水質悪化</p> <p>地形的特性から閉鎖的水域である。高度成長期以降、生活環境の変化により、水質の悪化が顕著に。</p> <p>このほか、海岸に漂着するごみの問題や海藻漂着による悪臭等の問題が発生。</p>

天橋立を中心とした大景域に係わる意見

大景域での主役は天橋立であると思うが、背景となる水際の沿岸域や山並みは景観形成上重要である。

天橋立の借景（背景）となる場所は重要だと思う。

天橋立と海、山並みの関係は重要であると思う。

天橋立周辺のどの山からでも海が見えるというのはすごい財産だ。心を休める場所として海が見える所を昔から大事にしてきた。

沿岸域に建つ大きな建物やホテル、歴史の館、大きな白いマンションも気になる。

目立たせようと建てられている建物が多く見受けられる。

現状と課題（天橋立）に係わる意見

古来、地域の人々の生活を含めた社会的仕組みとして維持管理されてきた松林を、今後どうやって作り替えていくのかについて議論していきたい。

松にとって好ましくない土壌の肥沃化が進んでいる。

「地域の環境は住民の手で守る」をモットーに美しい天橋立にしていきたい。

歴史的に蓄積したものの、文化的なものにこだわった景観づくりが大事である。

天橋立の清掃で集めたゴミ捨て場に困っており、この問題についても議論したい。

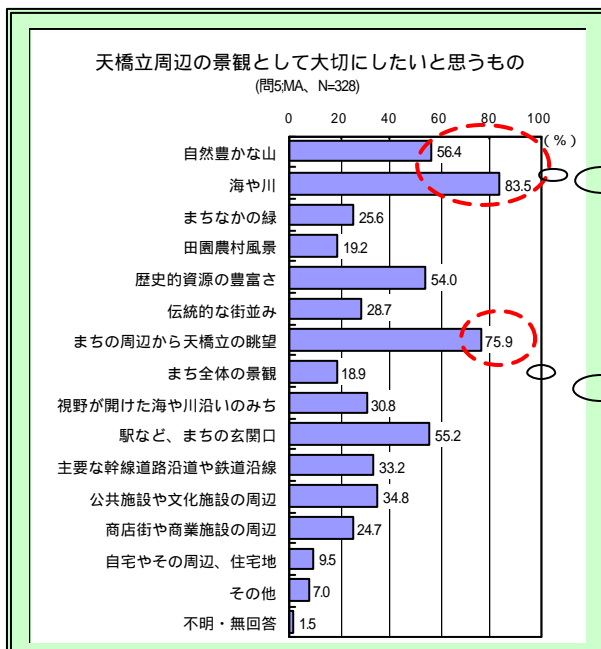
現状と課題（海域）に係わる意見

阿蘇海の汚れ、ごみ、海藻、ヘドロ等の問題

阿蘇海をきれいな海にもどすことが天橋立の活性化に一番必要

漂着ごみの回収問題


アンケート調査から



海、山、川など、大景域を構成する自然要素の重要性が明らかに

天橋立の景観としては、眺望景観の保全、育成が最も重要。

3) 沿岸域

	現状特性	課 題
市街地景観	<p>沿岸域の代表的な市街地として、宮津中心市街地地区、文珠地区、岩滝地区、府中地区がある。</p> <p>宮津中心市街地地区は建築物の密集度は高く、城下町の面影を残す伝統的な様式をもつ家屋や社寺、教会が残り、特徴的な町並みを形成。</p>	<p>俯瞰される町並み 展望施設から俯瞰されるまちの建物は、屋根の形状などの外観が確認される。俯瞰景に対する配慮が必要。</p>  <p>沿岸域で際立つ建造物 沿岸域に建つ大規模建造物の色彩等が際立って見える事例がある。周辺と調和した景観誘導が必要。</p> 
田園集落景観	<p>日置地区、府中地区の一部、宮津湾東岸一帯に多く、田園集落が点在。近年は、農業と漁業を中心に、海水浴や釣りを中心とした観光需要に対応した複合的な地区として展開。都市部からの来訪者も増加。</p> <p>府中地区溝尻にこの地域特有の舟屋集落がみられ、現在もその形態が残存。</p>  <p>日置地区の田園的環境の一画にリゾートマンション群が形成。</p> 	<p>田園風景と調和した建築物、工作物の誘導 歴史的価値を有する集落景観の保全や、一体的広がりを有する農地景観の保全について、その生業環境を活かした保全策の検討が必要。</p> <p>田園風景と看板 幹線道路沿いの農地に面して野点看板等の設置が多い。こうした場所は視界が開け、海や山への眺望が良好なことが多いことから、農地の保全とあわせてその周辺部における看板類のルールづくりが必要。</p> 

検討会委員意見から

現状と課題 (沿岸域・市街地景観)に係わる意見


歴史資源を中心とした周辺の町並み景観、田園集落について

- ・町並み景観の保存などについては、ゾーンを分けて景観まちづくりを考えてはどうか。
- ・田園風景が多く残っているなかで、休閒田の雑草等が気になる。

公共施設を中心とした景観について

- ・沿岸に建つ公共建築物の白色が目立ちすぎる。天橋立や周辺の山並みとの調和に配慮した色決めが必要。公共施設が先導し見本を見せることで民間にも広げていく必要がある。
- ・大規模な建築物は色や形のコントロールが必要。

4) 山並み

	現状特性	課 題
自然 景 観	<p>特に、海上からの山並み景観で、山林への竹林の浸食、山肌の露出など山の荒廃が見られる。</p>  <p>天橋立を取り巻く緩やかな高低の変化を有する山の稜線は、大景域の枠組みを構成する重要な要素。</p>	<p>山林の荒廃 山林の維持管理不足等による荒廃が進んでおり、その対策が必要。</p> <p>開発等による地形の改変 山麓付近の宅地開発や山中の道路整備等は、山そのものの地形や周囲の景観を改変し、景観上の大きなインパクトを与える。</p> <p>展望施設も見られている 山頂近くにある展望台は、市街地から見られているという意識の下、周囲の山並みにとけこんだ修景が必要。</p>

検討会委員意見から

現状と課題 (山並み)に係わる意見


天橋立や周辺の山並みとの調和に配慮した景観誘導が必要。

大景域での主役は天橋立であると思うが、背景となる水際の沿岸域や山並みは景観形成上重要である。

天橋立の借景(背景)となる場所は重要だと思う。借景を守るための山並み保存や沿岸に建つ建物に配慮が必要ではないか。

天橋立と海、山並みの関係は重要であると思う。山林の維持管理にも配慮すべき。

(2) 移動景観

	現状特性	課 題
幹線道路	沿岸域の各地区を結ぶ幹線道路である国道176号と178号及び府道沿道には、商業業務施設やドライブイン等の観光関連施設が立地。沿道には商業看板等屋外広告物が多数存在。	<p>連続的景観の創出 幹線道路は地域を周遊する観光ルートでもあり道路施設や沿道の町並み形成による連続的景観の創出により、地域らしさが感じられる景観形成が必要</p> <p>道路沿いの屋外広告物 沿道に張り出された広告物。看板や広告物などの林立により、沿道景観の質や標識類の案内機能を低下。</p>  
海上移動	<p>府中地区と文珠地区及び、宮津中心市街地地区を結ぶ定期観光船は、来訪者の多くが利用。</p> <p>海上からみた天橋立や周辺沿岸の風景が楽しまれている。定時運行されている観光船のほかに小型観光船も複数あり、湾内を自由にクルージングできる。</p>	<p>ひときわ目立つ観光船 海上を自由に行きかう船舶は、景観を構成する一要素。色彩意匠等に対する配慮が望まれる。</p> 

検討会委員意見から

現状と課題 (移動景観) に係わる意見

海上からみる天橋立も美しい。(大きな船で高い位置からみる天橋立もすばらしい)

モーターボートを含む観光船デザインの統一や配慮が必要ではないか。

船を活用するなど、パークアンドシップライドを推進してはどうか。

広告物は業種毎に色や形を統一し、数を規制してはどうか。

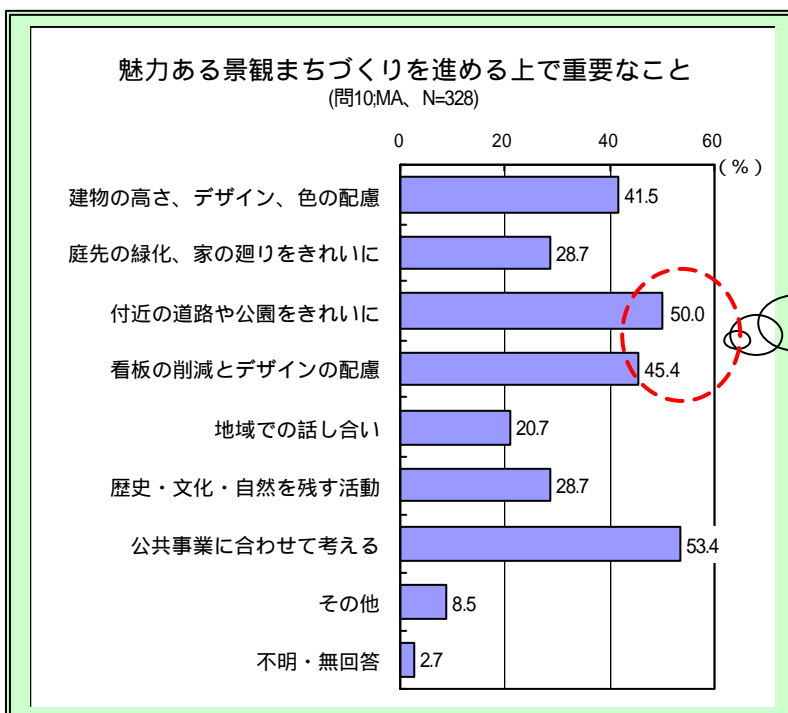
地域の人たちが自発的にルールをつくり、大きさや色等を決めていく必要がある。

車で通過するだけでなくゆっくり景観を楽しんでもらえるような工夫が必要。

地元の交通機関や行政、観光関係者が一体となって観光客が気軽に利用できる周遊バスを運行するサイクリングロードの早期実現

アンケート調査から

天橋立周辺地域における魅力的な景観まちづくりに向けたアンケート調査







魅力ある景観形成を進める上で、道路自身や道路景観を構成する看板に対する課題意識が高い。

(3) 小景域

平成18年度の検討事項

主要4地区（宮津中心市街地地区、文殊地区、岩滝地区、府中地区）について、現状特性分析及び平成17年度の検討に引き続いた課題精査

	現状特性	課 題（平成18年度充実）
宮津中心市街地地区	かつて城下町として栄えたまち。まちの一部に城下町形成時の街区が残る。旧三上家住宅をはじめとした歴史的建造物がまちなかに多く点在し、擬洋風の教会や建物が散見される特徴的な町並み。地区西部の丘陵地一帯に社寺が集積	伝統的町並み（市街地景観）の保全 伝統的な町並みの中に際立つ現代的な建物 丘陵部（大頂寺付近）から天橋立への眺望  宮津中心市街地地区の町並み ・伝統的な建造物と現代建築
文殊地区	古くから智恩寺の門前町として栄えたまち。土産物屋や飲食店、ホテルや旅館が集積する観光街区	駅前周辺の町並み景観に統一感がない 電線類がまちの景観を阻害している 駐車場等の景観配慮  文殊地区の町並み ・智恩寺門前付近にみられる看板建築の町並み
岩滝地区	北前船の西廻り航路の寄港地として江戸時代末期頃から発展したまち「織り機の音が通りに響く「ちりめんのまち」」。織物業の発展にともない織物商家や織物工場がまちなかに集積	埋立地の景観形成と利用の検討 伝統的町並み（市街地景観）の保全 伝統的な町並みの中に際立つ奇抜な色の建物 山の維持管理問題  岩滝地区の町並み ・まちなかに見られる彩度の高い色彩が用いられた現代建物
府中地区	古代丹後の政治の中心地であったまち。国分寺跡や籠神社など、歴史的社寺や建造物が多数存在。旧道沿いに形成された集落や海沿いの田園風景は特徴的	町並み景観の統一感（陸屋根、新しい住宅等による不調和） 田園集落景観の保全 ガードレールや河川、水路等構造物に対する配慮  府中地区の町並み ・籠神社付近の町並み、彩度の高い色彩が用いられた建物外壁

景観のよいところ・気になるところ『景観点検マップづくりのまとめ』

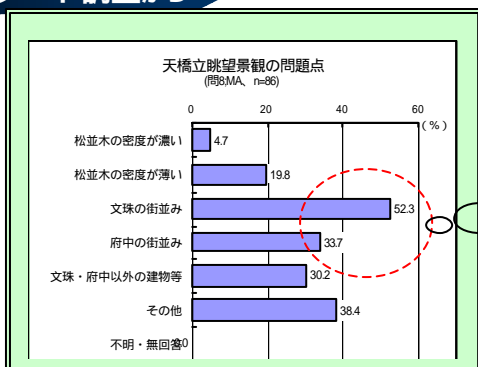
中心市街地地区	意見の概要
よいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・路地やカーブしている道など、城下町が形成された頃の街区形態が残る町並み ・三上家、黒田家など伝統的町家が多く残る ・茶六本館、清輝楼等、木造三階建ての建物。宮津カトリック教会など洋風の建物 ・鳥崎公園や歴史の館から見る天橋立 ・大頂寺付近から見る天橋立への眺望
気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な町並みのなかに際立つ現代的な建物 ・海岸線のごみが目立つ ・まちや道の案内が不足している ・鳥崎公園の管理状態が悪く雑草が茂っている

文珠地区	意見の概要
よいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体で町並みが改善されてきている ・駅前の外湯の建物はデザインもよく、シンボル性を感じさせる ・門前通りでは周辺との調和した石畳や街灯などが整備されている ・山手通りは落ち着いた雰囲気、ゆったり散策できる ・松並木と道が良い ・廻旋橋がおもしろい
気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ・電線類が歴史的な景観を阻害している ・歩道が狭くて歩くのに危険 ・空き店舗が目立ち寂しい ・店舗と民家の外観に統一感がない ・手入れされていなくてきたないどんぶち ・無機的な大きいスペースなだけの浜公園の駐車場

岩滝地区	意見の概要
よいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後ちりめんにかかわる商家や民家がまちなかに点在する、戦前にたてられたものもあり、残したい建物がいくつかある ・路地やカーブした道の雰囲気がよい ・織り機の音がまちのあちこちで聞こえるのがよい ・全体的に落ち着いた町並みで、奇抜な看板が少なくてよい
気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ・埋め立ても含め、公園の必要性が感じられない ・彩度の高い色（黄色）が外壁に使われている建物がある（奇抜すぎる） ・設置されたサインに歩行者が当たりそうで危険

府中地区	意見の概要
よいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの風景が感じられる田園風景 ・国府寺跡、周辺集落の町並みに統一感がある ・府中のまちのいたるところから天橋立が見えてよい ・天橋立内部からみる景観もよい、朝日や夕日、季節毎の風景もよい ・籠神社を始めとして、多くの寺などが点在しており歴史を感じる
気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇海の臭い、海岸に漂着するゴミ問題 ・天橋立公園の入り口付近をきれいにできないか ・双龍の松や船越の松などの活かし方 ・歴史的景観に調和しない陸屋根の建物や新しい住宅等 ・配慮が感じられないガードレール、河川や水路の構造物等 ・歴史的資源はたくさんあるが、案内板や名称の統一を図るべき

アンケート調査から



天橋立の眺望景観の課題として、付け根の町並みに対する問題意識が高い。

第2章 景観まちづくりの目標像

2 - 1 景観まちづくりの基本理念

平成18年度の検討事項

景観特性と課題等から導き出される景観まちづくりの基本理念を検討する。
地域の景観まちづくりのテーマ、キーワード探し 等

2 - 2 景観まちづくりの基本方針と目標像

平成18年度の検討事項

基本理念にもとづく具体的方針の検討
基本方針の柱立て、キーワード探し
50年、100年を見据えた景観まちづくりの目標像のイメージ共有

第3章 各主体に期待される役割

平成18年度の検討事項

景観まちづくりは、市民・事業者と行政が目的意識を共有し、連帯と協働の意識の下に取り組む姿勢が重要であり、景観まちづくりにかかわる各主体の役割を検討
各主体の協働による景観まちづくりの展開について

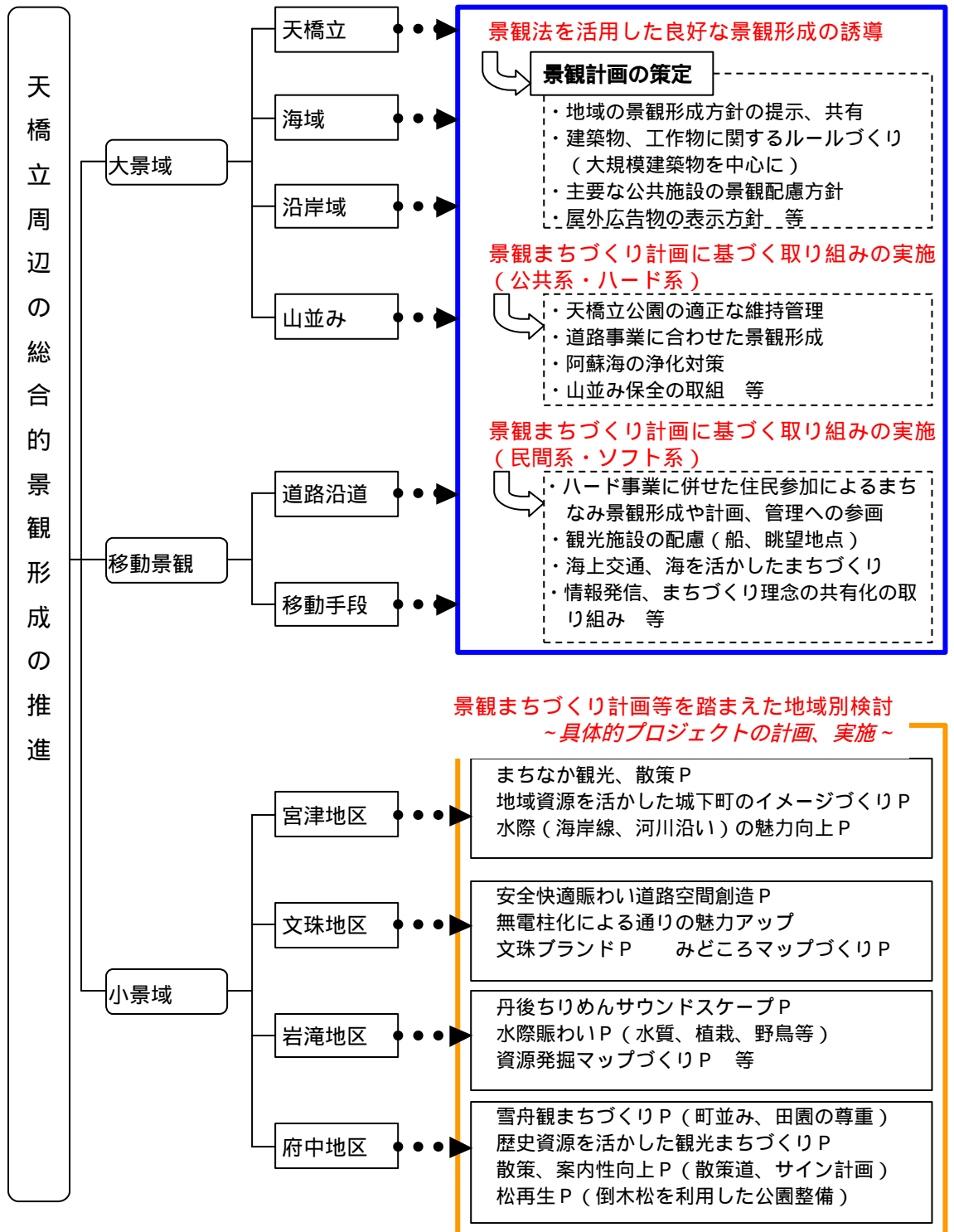
第4章 実現への道筋（計画の推進方策）

4-1 方策の体系

平成18年度の検討事項

第1章で分類した景観の現状と課題をもとに、第2章、第3章を踏まえ、課題の解決方策の体系を検討、提示

<これまでの検討内容の整理（今後充実）>



Pはプロジェクト

各プロジェクトは委員意見やワークショップ意見に基づく例示

4 - 2 方策の運用方針

平成18年度の検討事項

4 - 1で整理した解決方策の体系に基づき、各項目の具体的対応方策の方針を検討
 検討区域全体及び地域別の具体的取り組みの行動計画、プロジェクトの検討
 建築物、屋外広告物等について、シミュレーションを用いた具体的ルールづくり

例えば...



現況



外壁色彩変更、前面植栽



現況



サインの明度の低下、信号柱・電柱を
 ブラウン系、文字の読みやすさを向上
 (島根県事例)

修景手法などの事例研究(京都市の事例(姉小路界わい地区街なみ境整備事業))

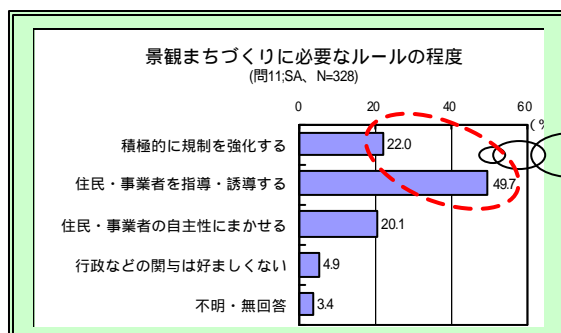


修景前



修景後

アンケート調査から



魅力ある景観まちづくりに向けては何らかのルールが必要と考える人が約70%。

4 - 3 住民参加と協働に向けて

平成18年度の検討事項

本検討会を受けての検討区域全体の横断的連絡調整組織の検討
地域別、課題別の継続的な景観まちづくりの推進体制について